

平和の大切さを伝えるために

8月6日、広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式が広島市の平和記念公園で行われ、本市から市内公立中学校の生徒代表16人を含む20人の平和使節団が参列しました。原爆が投下された午前8時15分に黙とうをささげると共に、平和への願いを込めて折った千羽鶴(約1万5千羽)を「原爆の子の像」へと献納してきました。

岡総務課 ☎826・1111 内線2010

■森 浩孝さん(土浦市地区長連合会)



1945年8月6日午前8時15分。広島市上空で一発の原子爆弾が炸裂し、ヒロシマを一瞬にして廃墟と化した72年前の事実。そして爆風、熱線、放射線により、老若男女を襲ったその惨状を、知識としてではなく、全人類の記憶として伝えなければならぬという「ヒロシマからの平和宣言」。その意味を平和祈念式に参列し、ヒロシマの地に立つて想う時、「みんなが笑って暮らせればいいのに」という「恒久平和」の願いに感涙……。

■岡田和子さん(土浦市女性団体連絡協議会)



原爆ドーム・資料館の展示物・数多くの慰霊や記念の碑。ガイドの説明など、目にし耳にして初めて被爆の実相を知り得た。爆心地に立ち、青い空を見上げた時、原爆の真の恐ろしさを実感した。今世界は核の脅威の中で不安な生活をしている。被爆国日本がやらねばならぬことは、戦争の記憶と被爆の惨状を風化させず、核廃絶への働きかけ、平和へのメッセージを世界に発信し続けることである。大切な子孫と地球のために！

■岡野祐弓さん(土浦一中 二年)



私は広島平和記念式典に参列させていただき、今まで考えていた原子爆弾の恐怖がいかに表面上のものであったか、本当に痛感しました。平和宣言にもあるように「共に生きるための世界をつくる責務」を心に留め、誠実に人と向き合っていくこうと考えています。

■吉沼聖大さん(土浦一中 二年)



今回平和使節団に参加したことで、平和についての考えを深めることができました。6日の平和記念式典に参加し、広島市の空気を感ずることができました。今でも苦しんでいる被爆者の方や黒い雨で被爆した方や遺族の方の為に恒久平和を実現させたいです。

■溝口哲矢さん(土浦青年会議所)



広島市平和記念公園の慰霊碑に刻まれた最も重き深き辛辣な一言があります。その御前では、誰もが御霊へ哀悼の誠を捧げます。戦争被爆の事実から72年の時を経た広島市は、活気に満ち溢れていました。未来ある子ども達と、私達のような戦争を知らない大人達が世代を越え、広島市の心に触れようとした時、「安らかに眠って下さい。過ちは繰返しませぬから」あの碑に固く刻まれた一言を思い返す瞬間が誇れることを願います。

■鈴木 寛さん(土浦四中 教諭)



8月5日、土浦市の16名の中学生による平和使節団が、広島市の平和記念公園を訪れました。原爆の子の像に手を合わせ、平和への祈りを込めてみんなで折った千羽の折り鶴を捧げました。翌日は平和記念式典に参列し、戦争の悲惨さを後世に伝える難しさや、核兵器のない世界の実現に向けての取り組みなどを真剣に聴きました。参加した生徒達は、ヒロシマで知ったことや考えたことをたくさんの人に伝えたいと思っています。

■瀨織楓葉さん(土浦一中 二年)



広島は平和への願いがあふれている町だと思いました。広島には今でも原爆について考えると、辛い思いをする方がたくさんいます。私は実際に原爆を経験した訳ではないけれど、私達中学生も原爆の恐ろしさを知り、平和への尊さを伝えていく事は大切だと思います。

■福士温也さん(土浦一中 二年)



僕は八月五日から七日まで広島にいきました。一日目は広島平和記念資料館に行きました。資料館では、たくさん資料が展示されていて、被爆の惨状を感じ取る事ができました。二日目は平和記念式典に参列しました。実際に参加することで平和の大切さがよくわかりました。

■阿蘇大士さん(土浦三中 二年)



私は今回の広島訪問で戦争や核兵器の悲惨さを知り、衝撃を受けました。しかし、過酷な状況でも町を復興することができた人々の強さには感嘆の声が上がります。平和都市広島は人々の願いや努力によって生まれた、後世へ受け継ぐべき記憶なのだと思います。

■沼尻陽奈さん(土浦三中 二年)



私が見た広島は、かつて原爆を落とされた街とは思えないほど活気にあふれていました。しかし原爆ドームや資料館では、想像をはるかに越える原爆の恐ろしさを実感させられました。私は広島で起きた悲惨な出来事を後世に伝えていかなければならないと思いました。

■佐藤友亮さん(土浦四中 二年)



広島記念資料館の展示物などから72年前の戦争の事実を学んできました。「平和は大事だ」「戦争はダメだ」と言葉だけでなくまだ見えない人にも実際に見て、感じて、考えてほしいと思いました。平和の灯の炎が消える日が早く実現することを強く願います。

■中田笙子さん(土浦四中 二年)



私は、土浦市平和使節団の一員として復興した広島町の町並みや語り部の方の体験談から、戦争の恐ろしさと平和であることの尊さを実感することができました。このことを次世代に伝えることが平和な日本に生まれた私たちの使命であると強く感じることができました。

■岡崎泰希さん(土浦五中 二年)



僕が今回学んだことは、平和の尊さと、その何もかもを一瞬で奪い去る原爆の恐ろしさと愚かさです。それまで果てしない時間をかけて人々が築き上げてきたものを消し去ってしまった原爆の悲劇の記憶は、絶対に風化させてはいけなと思います。

■高野優芽さん(土浦五中 二年)



私は広島を訪れ原子爆弾投下の惨劇を学び、後世の私達を思っただけで原爆ドームを残して下さったり体験談を語って下さったりした被爆者の方々に感謝しなければならぬと思いました。そして、実体験してはいけなくても、私も平和の尊さを訴えていきたいです。

■田口侑都さん(土浦六中 二年)



広島での3日間は僕の心に深く残る事ばかりで特に資料館。原爆の悲惨さ、命がいかに尊いかを改めて考えさせられました。原爆は大切な町、人々を一瞬にして消してしまふ。この出来事を後世に伝えていけるのは唯一の被爆国の僕達なのです。

■藤本琴梨さん(土浦六中 二年)



平和は決して当たり前ではない。1945年の第二次世界大戦の中で活気あふれる広島に原爆が投下された。いつ、どこで、何が起ころのか分からない。だから今、私たちが当たり前前に生活できている毎日はとても幸せな事なんだと考えた。

■染谷友哉さん(都和中 二年)



平和記念式典で、「核保有国は世界に沢山ある。その核をどうすべきか」という話を聞きました。私はその核を原爆として絶対に使ってはいけないと思います。多くの人々が苦しみ、命を落とすことのない世界になるよう原爆の恐ろしさを伝えていきたいです。

■富島明日香さん(都和中 二年)



平和を考え、平和を誓い、未来を支えるスタートの場所「HIRR OSHIMA」を自分の足で訪れ、目で確かめ、心で感じる事ができました。今回の経験は、これから戦争や平和について語り、伝えていく大きな自信となりました。しっかりと伝えていきます。

■田村空斗さん(新治中 二年)



僕は、今回使節団の一員として広島に行きました。そこで貴重な資料やテレビでしか見たことない原爆ドームを実際に見てきました。実物を見ると当時の悲惨さを痛感します。今の広島を見ると努力や平和への思いを感じることができました。

■和久井美絢さん(新治中 二年)



72年前のあの日、きのこ雲の下で何が起きていたのか、現地を訪れてみてそれが体全体伝わってきました。1つ1つの場所や物事を通して、ここでたくさんの方が原爆の被害にあわれたのだと感じました。広島で過ごした3日間はとても貴重な経験となりました。

(原文のまま)